

令和6年における旭川市的人口動態について

1 全体概要

表1. 旭川市の年間(1~12月)人口動態

(単位:人)

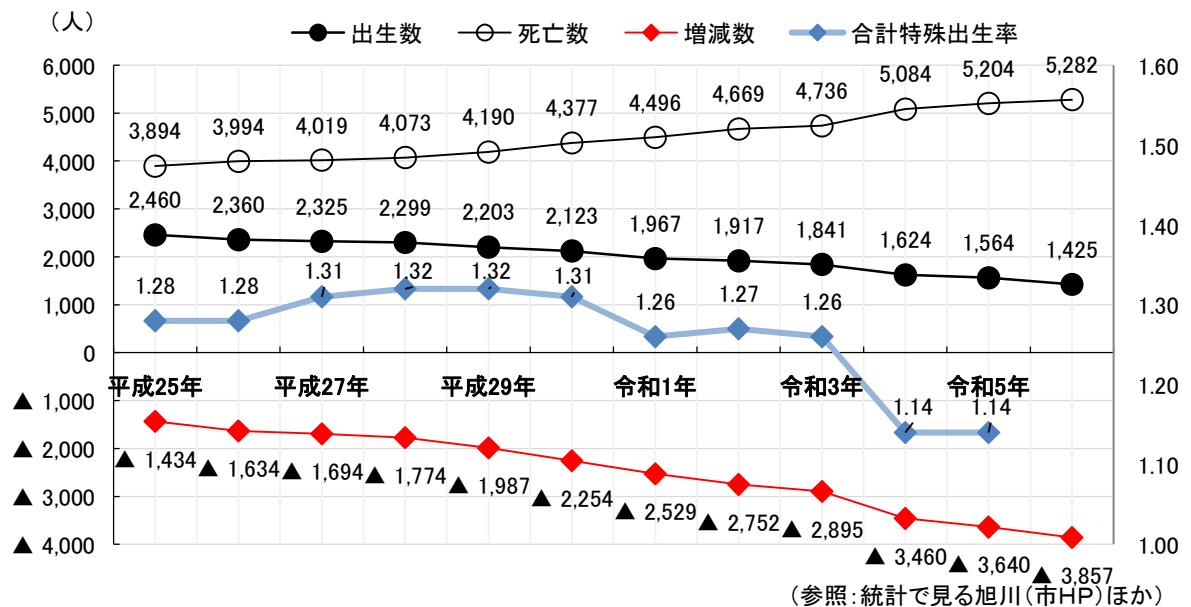
	1月1日 現在人口	自然動態			社会動態				全体 増減	
		出生	死亡	計	増		減			
					転入	その他	転出	その他		
令和3年	327,960	1,841	4,736	▲ 2,895	9,897	142	10,522	59	▲ 542 ▲ 3,437	
令和4年	324,186	1,624	5,084	▲ 3,460	10,048	87	10,368	81	▲ 314 ▲ 3,774	
令和5年	320,436	1,564	5,204	▲ 3,640	10,103	132	10,269	76	▲ 110 ▲ 3,750	
令和6年	316,183	1,425	5,282	▲ 3,857	9,718	91	10,096	109	▲ 396 ▲ 4,253	
直近年の差	▲ 4,253	▲ 139	78	▲ 217	▲ 385	▲ 41	▲ 173	33	▲ 286 ▲ 503	

(参照:統計で見る旭川(市HP))

- 令和6年1月～12月における人口動態は4,253人の減少で、自然減3,857人、社会減396人となった。
- 自然増減は前年比217人の減少拡大、社会増減は前年比286人の減少拡大となった。

2 自然増減の推移

図2-1. 旭川市の年間(1~12月)自然増減の過去10年間推移

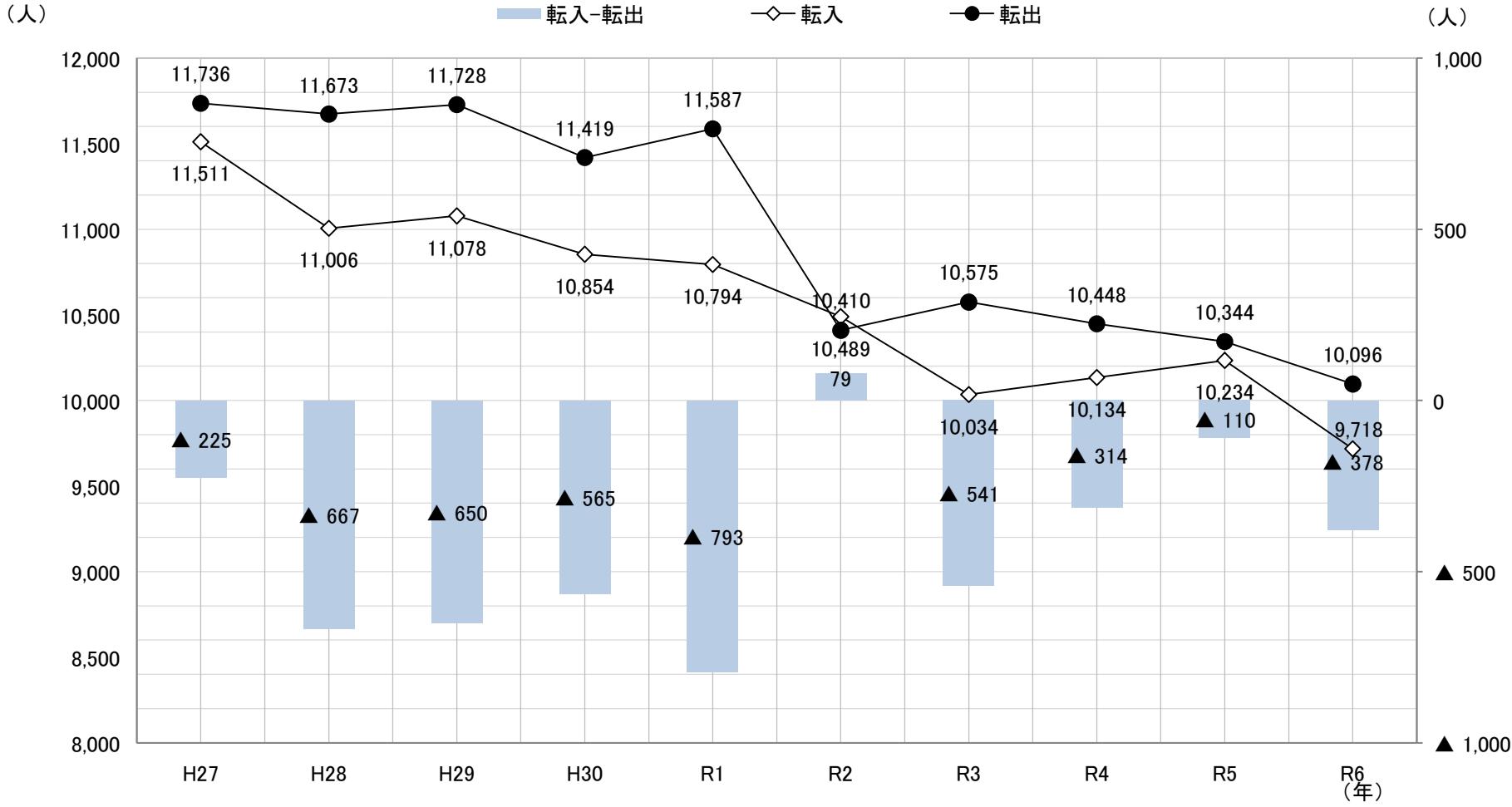


- 死亡数は、増加が続いており、令和6年は前年より78人多い、5,282人となった。
- 出生数は、減少が続いており、令和6年は前年より139人少ない、1,425人となった。
- 出生率は、平成24年以降、増加傾向で平成28年には1.32となつたが、令和2年から減少に転じ、令和5年が1.14となつた。
(国1.20 北海道1.06)

3 社会増減の状況

図3-1. 旭川市の年間(1~12月)社会増減の過去10年間推移

(ア) 推移



- 令和6年の転入者数は、9,718人で過去10年間で最も少ない水準となっており、前年より516人減少が拡大している。
- 令和6年の転出者数は、10,096人で過去10年間で最も少ない水準となっており、前年より248人減少が拡大している。
- 結果、社会増減数（転入-転出）は、378人の転出超過となり、超過幅は268人大きくなつた（▲110人→▲378人）。

(イ) 地域別転出入状況

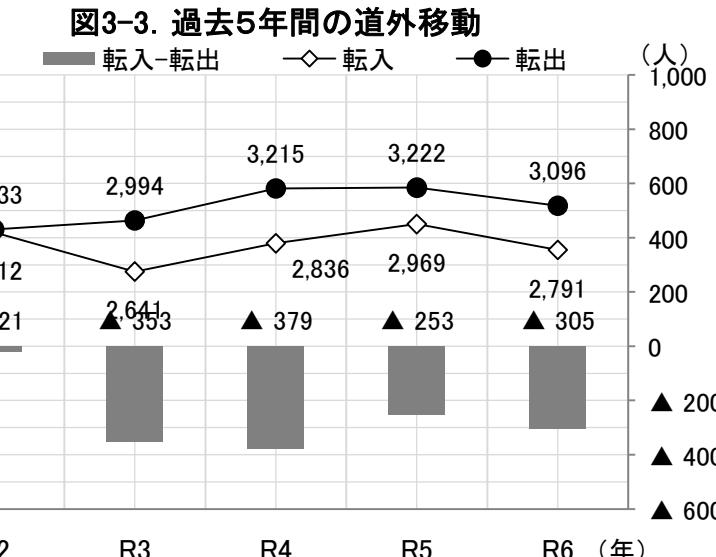
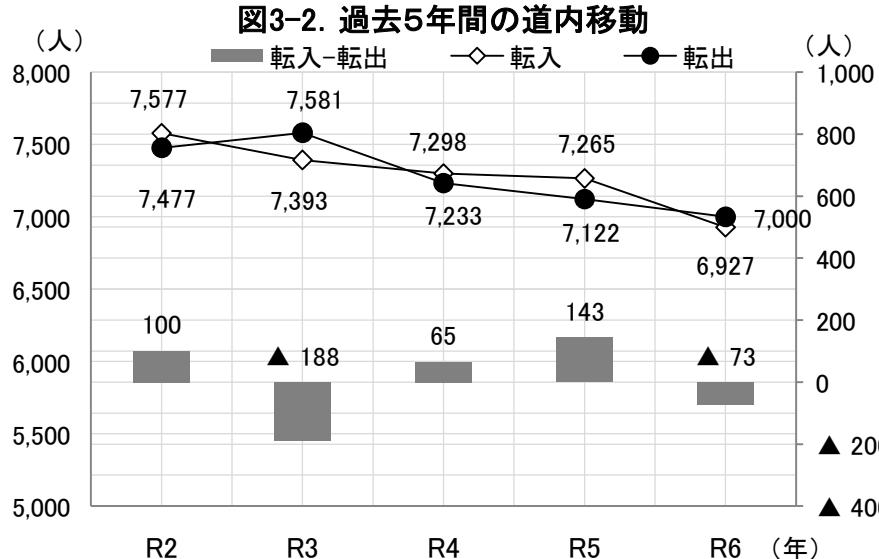


図3-4. 道内地域別社会増減(転入-転出, R4～R6年)



【主な特徴：道内は転入・転出ともに減少、道外はR2を除き社会減が続いている。R4以降は転入・転出ともに横ばい。】

- (図3-2) 道内移動については、転入者数が5年連続で減少が続いている。(平成26年以降減少が続いている)
社会動態は令和3年に転出超過（▲188人）となって以降、一時転入超過となつたが、R6に再び転出超過（▲73人）となつた。
- (図3-3) 道外移動については、令和6年は前年と比較して転入者・転出者数ともに減少となっており、結果として305人の転出超過となつた。
- (図3-4) 道内移動の14地域別比較では、転出超過が最も大きい石狩地区が前年より89人増加し、1,162人の転出超過と高い水準となっている。
一方で、空知、上川、オホーツク、宗谷、留萌といった道北、近隣地域からの転入超過の傾向が続いている。

(ウ) 男女別転出入状況

図3-5. 男性・移動推移

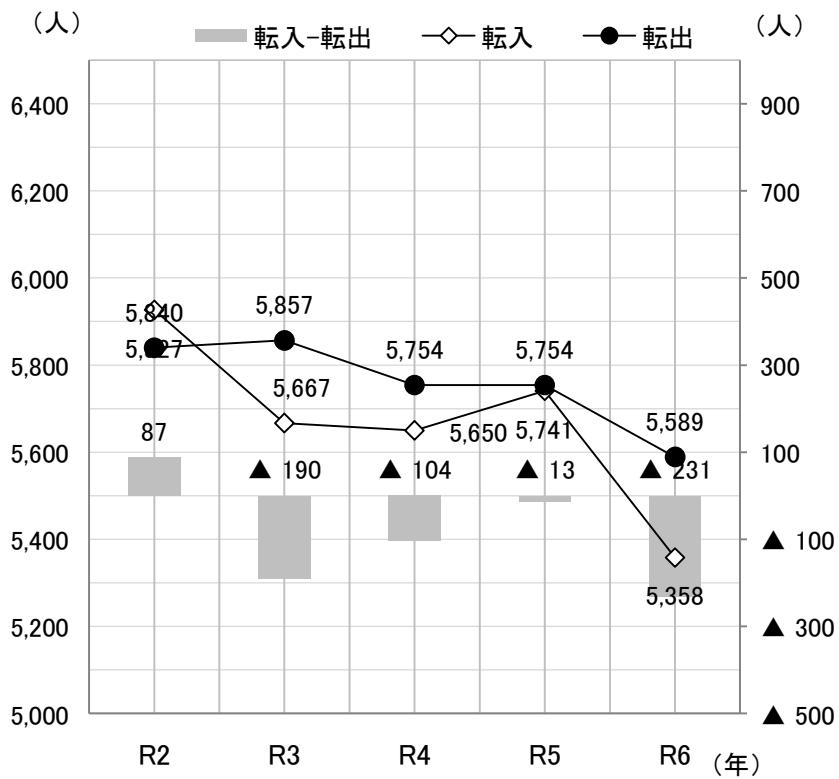
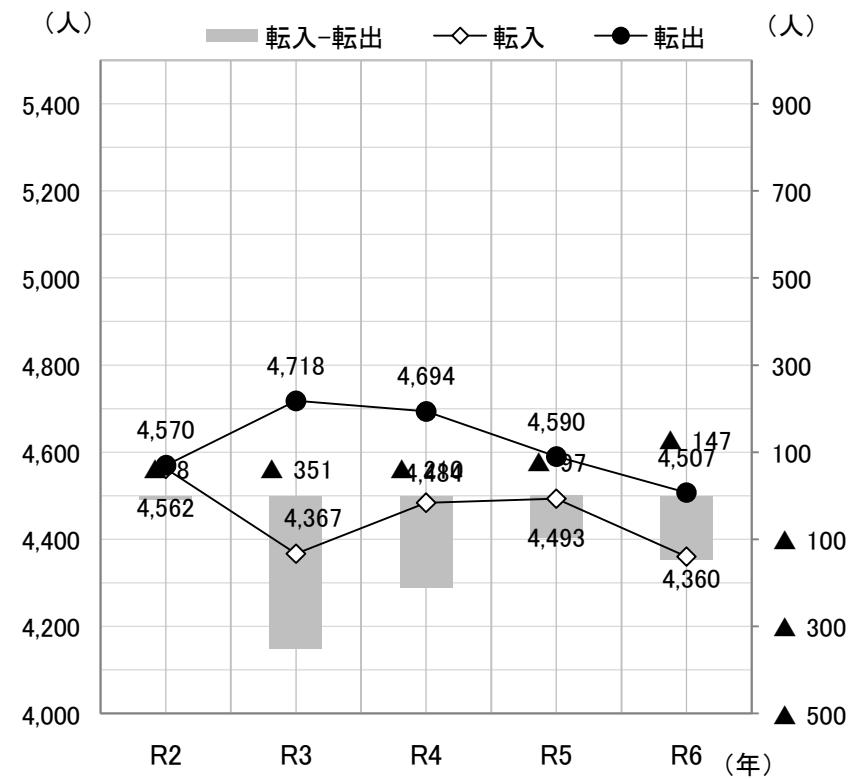


図3-6. 女性・移動推移



【主な特徴：令和3年以降、令和5年にかけて男女ともに社会減少が減少傾向にあったが、令和6年に再び拡大に転じた。】

- (図3-5) 男性は、転入者数が前年より383人減少し、転出者数が前年より165人減少した。結果、転出超過は231人となり、転出超過は前年から218人拡大した（▲13人→▲231人）。
- (図3-6) 女性は、転入者数が前年より133人減少し、転出者数が前年より83人減少した結果、転出超過は147人となり、転出超過は前年から50人拡大した（▲97人→▲147人）。

(工) 年齢区分別転出入状況

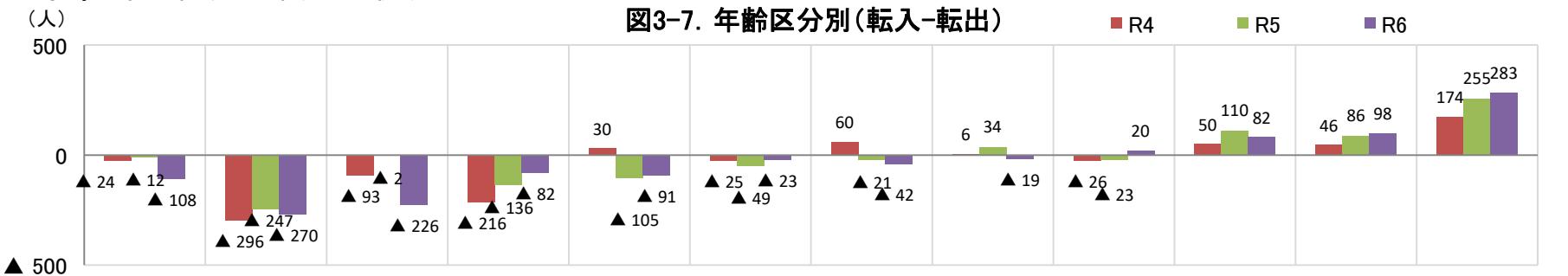


図3-8. 男性・年齢区分別(転入-転出)

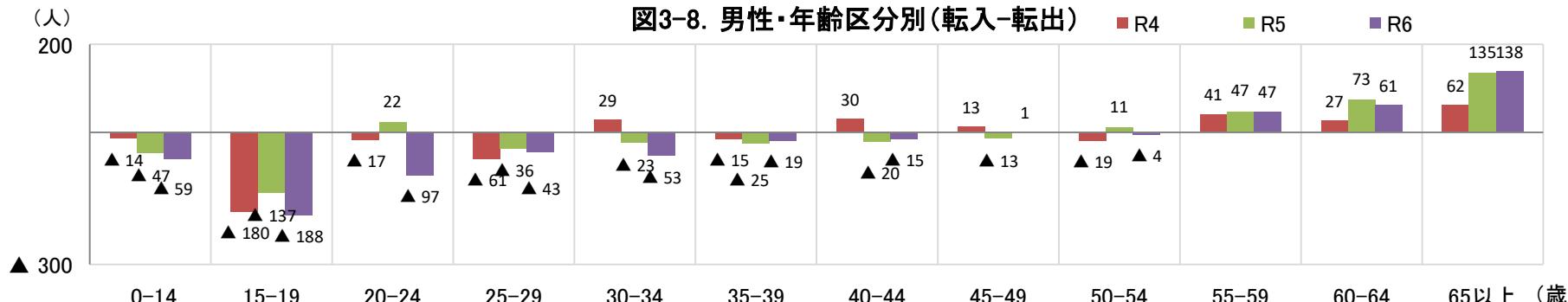
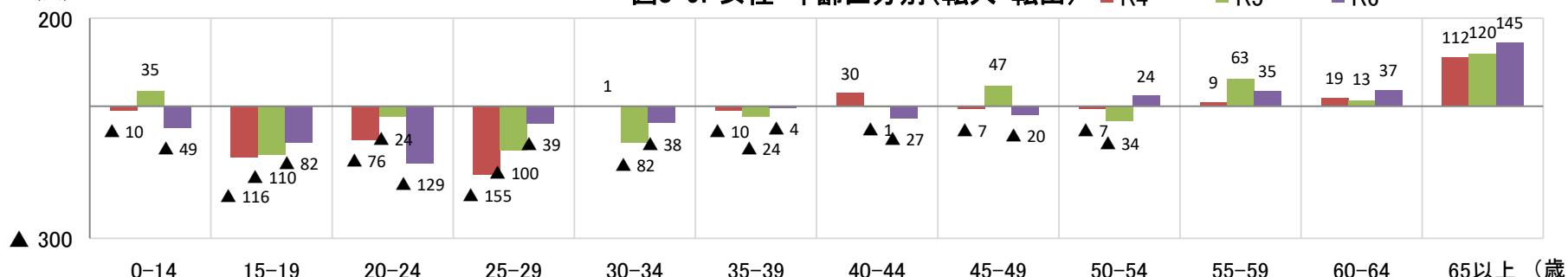


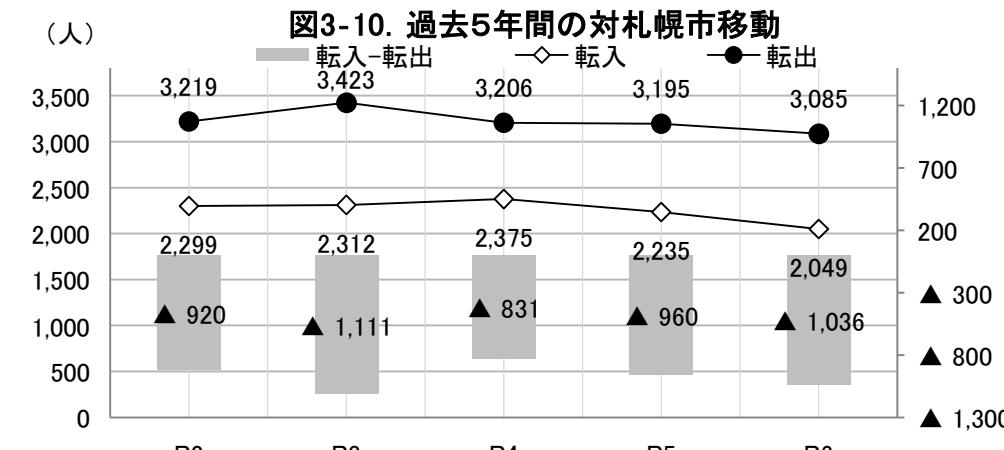
図3-9. 女性・年齢区分別(転入-転出)



【主な特徴：前年と比較して転出超過が大きく拡大（▲2→▲226）した20-24歳を始めとして、依然として若年層の転出が大きな課題。】

- (図3-7) 年齢区分別では、転出超過が0-24歳は拡大、25-39歳は縮小、40-49歳は拡大し、50歳以上は転入超過である。
- (図3-8) 男性では、転出超過が15-34歳で拡大したが、35歳以上ではおむね縮小または転出超過がみられる。
- (図3-9) 女性では、転出超過が15-19歳で縮小したが、20-24歳で大きく拡大している。25-39歳では縮小したが、40-49歳では拡大し、50歳以上は転入超過である。

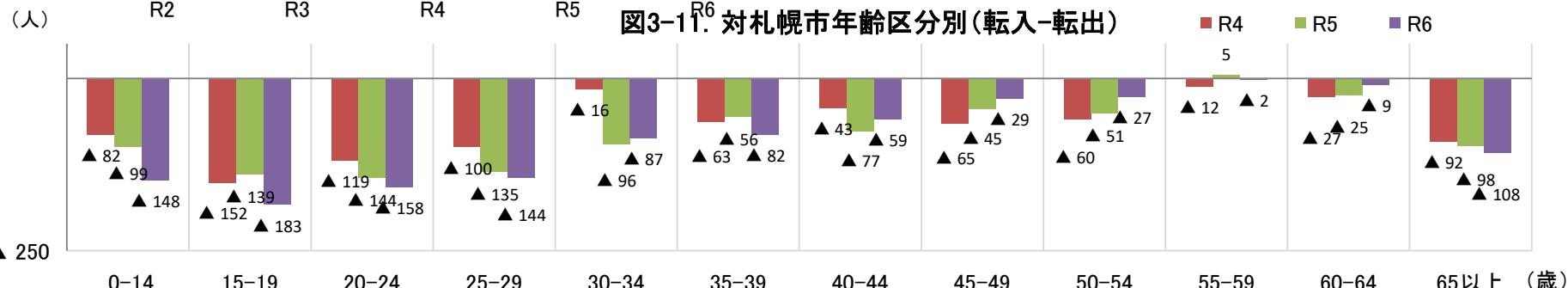
(才) 対札幌市転出入状況



(図3-10)

道内移動で転出超過が最も大きい札幌市との転出入は、前年より転出者数が110人縮小、転入者数が186人減少した。

その結果、転出超過幅は前年から76人増加し、1,036人の社会減と高水準が継続している。



(図3-11) 年齢区分別では、すべての区分で転出超過となっている。

4 令和6年における人口動態のまとめ

- 全体として、自然減が拡大傾向にあり、年間の人口減少数が過去1番目に高い4,253人となった。
- 自然減については、前年より死亡数が78人増加、出生数が139人減少となり自然減が拡大している。（▲3,640人→▲3,857人）
- 社会増減については、
社会減が前年より286人拡大（▲110人→▲396人）
道内移動については、転入者数が338人減少、転出者数が122人減少し、結果として転出超過となった（143人→▲73人）
道外移動については、転入者数が178人減少、転出者数が126人減少し、結果として転出超過が拡大した。（▲253人→▲305人）
15歳-34歳の転出超過は他の年代に比べ大きく、依然として若年層の流出が課題。